

	科目概要・到達目標など	専門分野の学識の習得					幅広い教養の習得	自由な発想と柔軟な判断ができる能力の習得	履修区分
		経営学・商学	会計学・ファイナンス	経済学	情報・統計学	その他			
経営学・商学									
経営学総論Ⅰ	「実践的な経営の場面で活用されている理論・ノウハウ」をバランス良く学び、各自が自律的に学習して行けるような道筋を提示する。「企業経営者が日常使っている専門的な概念を、正確に理解できる」ということが学習到達目標である。	◎					○	○	選択必修
経営学総論Ⅱ	「実践的な経営の場面で活用されている理論・ノウハウ」をバランス良く学び、各自が自律的に学習して行けるような道筋を提示する。「企業経営者が日常使っている専門的な概念を、正確に理解できる」ということが学習到達目標である。	◎					○	○	選択必修
経営管理論Ⅰ	経営管理（マネジメント）の基本的な知識を習得して、組織で現実に行われている活動について理解し、それに生かせるようにする。また構成と論理の展開のしっかりしたレポートを書けるようにする。	◎					○	○	選択必修
経営管理論Ⅱ	マネジメントについての重要なやや応用的な理論について、現実への適用可能性を検討しながら理解する。	◎					○	○	選択必修
経営戦略論Ⅰ	経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養う。	◎		○			○	○	選択必修
経営戦略論Ⅱ	『経営戦略論Ⅰ』と合わせ、主に全社戦略とサプライチェーン戦略に関する基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養うことを目的とする。	◎		○			○	○	選択必修
マーケティング論Ⅰ	毎回企業のマーケティング活動の事例を取り上げ、具体的なケースを通じてマーケティングの基礎的な概念や理論を学ぶ。	◎					○	○	選択必修
マーケティング論Ⅱ	マーケティングの概念と理論を中心に学び、マーケティング活動に関する実践的で役立つマネジメント・ノウハウを習得する。	◎					○	○	選択必修
経営学特講	経営学における特定の分野やテーマについて学習する。学習内容の詳細については各担当教員によるシラバスを参照されたい。	◎	○				○	◎	選択
経営組織論	経営組織論の概念をもとに、組織における個人・集団の振る舞いや、組織活動の背後にある意味を理解する。その上で、現代社会における経営組織の諸側面について、多面的かつ批判的に考察する力の修得を目指す。	◎					○	○	選択
人的資源管理論Ⅰ	人的資源管理の基礎として、①人的資源管理の基本的考え方、②人的資源管理にかかわる課題や論点、③日本企業の人的資源管理の現状や変化について学ぶ。	◎					◎	◎	選択
人的資源管理論Ⅱ	①日本企業が直面する人的資源管理上の諸課題について理解し、②そうした課題を解決するうえで、企業がどのようにすべきかを学ぶ。	◎					◎	◎	選択
事業創造論	ベンチャー企業や中小企業の経営者の組織化にまつわる行動について明らかにすることによって、企業家が事業を取り巻く環境をどのように変えて行くのかについて理解する。	◎					○	○	選択
日本経営論	日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義する。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象について考える能力を高めることが本授業の到達目標である。	◎					○	◎	選択
消費者行動論	当科目は消費者行動に関する体系的な知識を獲得できるようにし、ブランドマーケティング戦略の構築を意識して講義を行う。履修者は、消費者の認知・態度・行動という3つの側面を重視しながら、実践的なブランドマーケティングに有用な消費者知識の獲得を目指して下さい。	◎					○	○	選択
広告論	企業のマーケティング活動において重要視されている広告の機能と役割を理解する。あわせてブランド育成という観点から広告効果測定の実例を学ぶ。	◎					○	○	選択
会計学・ファイナンス									
簿記Ⅰ	会計（特に財務会計）への入門として、簿記を初めて学ぶ学生を対象として簿記の基礎を学ぶことにする。簿記検定3級レベルの理解ができることを目標としている。	○	◎				○	○	選択必修
簿記Ⅱ	会計（特に財務会計）への入門として、簿記を初めて学ぶ学生を対象として簿記の基礎を学ぶことにする。簿記検定3級レベルの理解ができることを目標としている。	○	◎				○	○	選択必修
会計学入門Ⅰ	この講義の中心は企業が公表している基本的な財務諸表である損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の読み方と、それらを用いた財務諸表分析の基礎を学ぶことである。	○	◎				○	○	選択必修
会計学入門Ⅱ	会計基準を適用した具体的な会計処理や計算方法について学習を進め、財務会計の基本的テキストの内容を十分理解することを目標とする。また後半の2回の講義で、原価計算と管理会計の基礎についても触れることにする。	○	◎				○	○	選択必修
簿記Ⅲ	日商簿記検定2級程度の商業簿記（連結財務諸表を除く）の実力をつけるための学習をする。	◎	◎				○		選択必修
簿記Ⅳ	金融商品や税効果会計など日商簿記検定1級レベルの商業簿記の一部を深く学習する。	◎	◎			○	◎		選択必修
財務会計論Ⅰ	株主や債権者など企業外部の利害関係者に対して経営成績や財政状態を報告する目的で行われている財務会計について、企業会計原則および企業会計基準を中心としながら関係諸法令についても視野に取めながら、体系的に学習することを目標とする。	○	◎				○	○	選択
財務会計論Ⅱ	株主や債権者など企業外部の利害関係者に対して経営成績や財政状態を報告する目的で行われている財務会計について、企業会計原則および企業会計基準を中心としながら関係諸法令についても視野に取めながら、体系的に学習することを目標とする。	○	◎				○	○	選択
原価計算論Ⅰ	原価計算論を学習する上で必要となる基礎的な概念や専門的な用語のいくつかを自分なりの言葉で簡潔に説明できること、および原価計算の一連の手続きおよびその意味内容を理解し、基本的な計算プロセスが説明できること、さらに原価計算に関わる基本的な計算問題が解けることを目標とする。	○	◎				○	○	選択
原価計算論Ⅱ	経営管理目的のために原価計算システムがどのような情報を提供することができるのか、またその具体的な役割を理解することを目標とする。	○	◎				○	○	選択
管理会計論Ⅰ	管理会計の計算及び、組織での管理方法について学習する。	○	◎				◎		選択
管理会計論Ⅱ	管理会計の計算及び、組織での管理方法について学習する。	○	◎				◎		選択
監査論Ⅰ	財務諸表監査が我が国においてどのような趣旨からどのように制度化されているかを理解する。	○	◎				○	○	選択
監査論Ⅱ	我が国の監査制度に盛り込まれているリスクアプローチの考え方と、監査意見が意味する内容を理解していく。	○	◎				○	○	選択
税務会計Ⅰ	法人税の計算の基本的な考え方を学び、財務会計との相違を理解することを目指す。	○	◎				○		選択
税務会計Ⅱ	法人税の課税所得計算の基礎を学んだ上で、法人課税の個別問題を理解し、応用力の向上を目指す。	○	◎				○	○	選択
経営分析論Ⅰ	企業の財務体質を判定する定量的財務諸表分析を学習する。企業が開示する会計情報（数値データ）に基づいて財務体質を的確に把握することによって、財務上の問題点とその解決策を明らかにし、経済合理的意思決定の促進を理解することが当該科目の目標である。	○	◎				○	○	選択
経営分析論Ⅱ	経営分析Ⅰと同様に企業の財務体質を判定する定量的財務諸表分析を学習する。企業が開示する会計情報（数値データ）に基づき財務体質を的確に把握することによって、財務上の問題点とその解決策を明らかにし、経済合理的意思決定の促進を理解することが当該科目の目標である。	○	◎				○	○	選択
会計情報論Ⅰ	会計情報システムの設計・開発において重要な役割を果たすのが会計データモデルである。本講義では、REA会計モデルに代表される会計データモデル論がこれまでどのように展開してきたかを概観し、会計データモデルの基礎を理解することを目標としている。		◎			◎	◎	○	選択
ファイナンス論Ⅰ	金融・証券市場の基礎知識および債券と株式を対象とした証券分析を学ぶ。証券のしくみや現在価値の概念を正しく理解することが目標となる。		◎	○	○		○	○	選択
ファイナンス論Ⅱ	デリバティブとポートフォリオ理論に関する基礎を学ぶ。無裁定価格理論の概念や証券とそのポートフォリオのリスクとリターン分析手法を修得することが目標となる。		◎	○	○		○	○	選択
経済学									
経済学入門Ⅰ	ミクロ経済学の基本的な理論を理解する。ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にする。	○	○	◎			○	◎	選択必修
経済学入門Ⅱ	マクロ経済学で用いられる経済指標と基本的な経済モデルを学ぶ。経済指標に関しては、国民経済計算を中心としてマクロ経済統計を説明する。経済モデルに関してはモデルの構造を学ぶと同時に、データとの対応についても考察する。	○	○	◎			○	○	選択必修
現代経済学Ⅰ	ミクロ経済学の基本的な理論を理解する。ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にする。	○	○	◎			○	○	選択
現代経済学Ⅱ	ミクロ経済学の基本的な理論、特に、完全競争の下での企業行動の基礎理論や完全競争が実現しない場合に市場で起きることを理解する。現実の経済事象を理解する上で必要となる理論を学び、現実のビジネスや消費者行動の事例を挙げながら、理解を深めていく。	○	○	◎			○	○	選択

金融論 I	貨幣や金融の諸問題を学修して金融への関心や理解を深めるとともに、日常生活や就職に活用できるようにする。			○	◎			○	○	選択必修	
金融論 II	貨幣や金融の諸問題を学修して、金融への関心や理解を深めるとともに、日常生活や就職に活用できるようにする。			○	◎			○	○	選択必修	
経済学特講	経済学における特定の分野やテーマについて学習する。学習内容の詳細については各担当教員によるシラバスを参照されたい。				◎			○	○	選択	
国際金融論 I	現実の世界における様々な国際金融現象の背後にある基礎的な理論を学び、その意味を理解することを目標とする。	○	○	◎				◎		選択	
国際金融論 II	国際通貨体制に関する歴史的な変遷について学び、現代の国際金融問題について理解を深める。	○	○	◎				◎		選択	
社会経済学 I	①資本主義経済システムの歴史的な性格を理解すること。②現代資本主義において生起する諸問題を基礎理論にまでさかのぼって理解するための概念を習得すること。				○			○	○	選択	
社会経済学 II	①資本主義経済システムの歴史的な性格を理解すること。②現代資本主義において生起する諸問題を基礎理論にまでさかのぼって理解するための概念を習得すること。				○			○	○	選択	
経済史 I	①市場経済がどのように発展していったかを理解する。②またそれには様々な類型があったことを理解する。③論理的な文章が書けるようになること。				○			○	○	選択	
経済史 II	①日本における市場経済がどのように発展していったかを理解する。②またそれに対し、国内的、国際的要因がどのように作用したかを理解する。③論理的な文章が書けるようになること。				○			○	○	選択	
財政学 I	日本財政の現状を把握し、どうあるべきかについて考えるための基礎的な知識と論理的思考力を身につけることが目標になる。				◎			○	○	選択	
財政学 II	財政学 I の知識を前提としたうえで、税制の問題、社会保障問題、マクロ経済政策、地方財政問題等の、政府が実施している様々な政策を眺めていくことで、現実の経済を見る目を養う。				◎			○	○	選択	
マクロ経済学 I	マクロ経済学を入門から中級レベルで学ぶ。その中でも、1960年代までのマクロ経済学を中心的に学ぶ。				◎			○	◎	選択	
マクロ経済学 II	マクロ経済学 I の引き続きで、特に80年代以降の理論の理解とその応用について学習する。				◎			◎	◎	選択	
国際経済論 I	国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強する。				◎			○		選択	
国際経済論 II	国際経済論 II では国際貿易論の基本を学習する。				◎			○		選択	
環境経済論 I	環境経済学の基礎理論・概念。環境経済学の基本概念、手法を初学者を念頭に置き、できる限り詳しく丁寧に解説する。				◎			◎	◎	選択	
環境経済論 II	廃棄物・リサイクルの経済学。最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深めてもらう。				◎			◎	◎	選択	
経済政策論 I	①古典派の理論を学び、経済成長の諸要因を理解する。②ケインジアン理論を学び、景気変動の諸要因を理解する。③財政金融政策がマクロ経済に及ぼす短期的・長期的影響を理解する。				◎			○	○	選択	
経済政策論 II	①「政府の役割」や「価格メカニズムの役割」を理解する。②公共財の供給決定メカニズムや外部性の解決方法を理解する。③課税や公債の負担、財政政策の効果について理解する。				◎			○	○	選択	
日本経済論 I	日本経済の「史的展開」とその「理論」的な理解（日本経済論 II の基礎理論）				◎			○	○	選択	
日本経済論 II	戦後日本資本主義の展開を俯瞰的に把握すること。				◎			○	○	選択	
経済地理	経済地理学の基本的な考え方、方法を学ぶことによって、社会・経済現象に対して経済地理学からどのように捉えることができるかについて理解する。				◎			○	○	選択	
情報・統計学											
統計学入門	統計学の基本的な理論について学び、データを整理・要約し、データの傾向について考察できるようになることが目標である。記述統計（ヒストグラム、データの代表値とばらつき、散布図、相関）と初歩的な推測統計（点推定、区間推定）を扱う。	○	○	○	◎			○		選択必修	
情報学入門	情報学の基礎を学び、ワープロソフトや表計算ソフトなどの情報リテラシーを習得する。学問をする上で必要となるコンピュータを使った知識獲得、情報整理を行えるようになることがテーマとなる。	○	○	○	◎			○		選択	
統計学 I	統計データの読み方および使い方を正しく理解して論文が書けるようになることが目標である。経済統計（統計調査の調査方法、外部データの利用、統計データの構造）、記述統計（統計データの分布、集計と分類、分布の代表値とばらつき、散布図と集中度、相関と回帰）までを取り扱う。	○	○	○	◎			○		選択	
統計学 II	統計データの読み方および使い方を正しく理解して論文が書けるようになることが目標である。重回帰分析、カテゴリカルデータ分析、数量化理論、多変量データ分析を学習する。	○	○	○	◎			○		選択	
データサイエンス入門A	現代社会におけるデータサイエンスの役割と、データ収集・活用一般的な方法を理解することが目標である。データサイエンスがもたらす利点だけでなく、リスクを認識し、データを守るための倫理・モラルを身につける。	○	○	○	◎			○		選択	
データサイエンス入門B	本物のデータを収集・分析・可視化する過程を理解することが目標である。データサイエンスの社会における貢献と役割を理解し、インターネットからのデータの収集方法、分析法、分析結果の解釈や可視化、その活用を理解する。	○	○	○	◎			○		選択	
データサイエンス応用基礎 A	データサイエンスおよびデータエンジニアリングの基本的な概念と手法、応用例を学び、データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力、AIを活用し課題解決につなげる基礎能力について運用を行う側面を中心に修得する。そして、自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点を獲得する。	○	○	○	◎			○		選択	
データサイエンス応用基礎 B	数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）を補完的・発展的に学ぶ。データサイエンスおよびデータエンジニアリングの基本的な概念と手法、応用例を学ぶことで、AIの基本的な概念と手法を学び、それを支える基本的な技術とAI技術を活用し課題解決につなげるとは何かを理解する。	○	○	○	◎			○		選択	
データサイエンス応用基礎 C	データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力、AIを活用し課題解決につなげる基礎能力を習得するための実習を行う。数理・データサイエンス・AIの活用における一連のプロセスである「課題の発見と定式化」・「データの取り扱い」・「モデル化」・「結果の可視化」・「検証、活用」を実習を通じて学ぶことを目的としている。ExcelVBAマクロプログラミングを実習し、プログラミングの考え方とプログラミングによるデータ解析の手法を理解する。	○	○	○	◎			○		選択	
その他											
総合特講	私たちの生きる社会の豊かさをどうとらえ、そこに統計がどう関わっているのかについて学び、データに基づいて社会の様相をとらえるスキルを身につける。							◎	◎	◎	選択
総合外国語特講	To introduce students to the culture & society of contemporary Britain through a variety of stimulating audio-visual & reading materials.							◎	◎	◎	選択
スポーツ特講	本講義では、自身の体力および身体組成を把握したうえで、身体活動と病気の関連を免疫系および自律神経の観点からアプローチする。また実践においてはウォーキングとヨガを通じて、運動・スポーツの必要性を認識することを目標とする。							◎	◎	◎	選択
憲法	近代憲法の原理を学ぶとともに、日本の憲法の特徴は何かを理解する。日本国憲法の保護している人権の内容、その保障の現状および課題について理解する。日本国憲法における統治機構、三権分立、違憲審査制、地方自治について理解する。							◎	◎	◎	選択
民法一部（総則・物権法）	契約、物、家族といった私達の生活の基本的なルールを定めている民法のうち、民法全体に共通するルールからなる「民法総則」部分、および、物についての規範である「物権」部分を中心に、基本的な内容を理解することを目標とする。							◎	◎	◎	選択
民法二部（債権法）	民法のうち、取引に直接関係する債権総論、債権各論部分について、基本的な内容を理解することを目標とする。							◎	◎	◎	選択
商法総則・商行為法	企業組織・企業取引に関してわが国ではどのようなルール・仕組みが用意されているかについて基本的な知識を修得しており、それらルール・仕組みの概要を説明することができることが到達目標である。	○	○	○				◎	◎	◎	選択
会社法	会社法の重要かつ基礎的な知識を習得すること。①株式会社および持分会社に関する会社法上の制度の基本を正確に理解すること。②上記の知識を活用して、具体的な問題を解決する能力を身につけること。	○	○	○				◎	◎	◎	選択
手形法・小切手法	手形・小切手で用いられている解釈技術は、民法（特に債権法）の理解を深め、現代的な決済システムにも応用できる有用な知識であるので、これを身につけるように努めてほしい。				○			◎	◎	◎	選択
労働法	労働法の意義、目的を正確に把握し、労働契約法の仕組みを理解することが望まれる。労働基準法、最低賃金法など労働法規における労働条件基準を正確に理解することが目標である。労働組合の機能、団体交渉、争議行為等団体行動の法的保障と限界を正確に理解することが目標である。	○		○				◎	◎	◎	選択
社会思想史	古代から20世紀にまでおよぼヨーロッパを中心とした社会思想史について、各時代ごとの思想の特徴を理解し、一定程度自分の言葉で語るができるようになる。							◎	◎	◎	選択
演習	経営学・経済学における特定の分野・テーマについて深く学習する。履修者は、討論・報告などの積極的な授業参加を通じて主体的な問題解決能力を修得する。学習内容の詳細については各担当教員によるシラバスを参照されたい。	○	○	○	○	◎		◎	◎	◎	選択
卒業論文	これまでの学習を踏まえ、問題の設定と検証を行うことで学習成果としてまとめる。	○	○	○	○	◎		◎	◎	◎	選択